東北自然歩道マップ

NEW OKUNO HOSOMICHI·YAMAGATA

新・奥の細道

一周ルート

㉑

民話の散歩みち

Minwa-no-sanpo-michi

山形県

周辺のアクセスガイド

高畠町鳥居町までは
・JR高畠駅から車で20分。
高畠町亀岡までは
・JR高畠駅から車で10分。

観光・宿泊のお問合せ	高畠町観光協会 〒999-21 高畠町大字山崎200-1	☎0238—57—3844
交通のお問合せ	JR高畠駅 〒999-21 高畠町大字山崎201	☎0238—57—3104
コースのお問合せ	高畠町商工観光課 〒992-03 高畠町大字高畠436	☎0238—52—1111代
	山形県環境保護課 〒990 山形市松波2-8-1	☎0236—30—2207

表紙の写真は、亀岡文殊

NEW OKUNO HOSOMICHI・YAMAGATA

GUIDE みどころ案内

1170年頃の高畠町は「高畑」と称し、伊達家の居城があった場所であり、その城跡をコース沿いに見ることができます。また、コースの中ほどに、1300年前の犬と猫の民話が伝えられている「犬の宮」「猫の宮」があり、現在ではペットの守り神としてまつられ、多くの人が訪れています。コースの終点には日本三文殊の一つに数えられている「亀岡文殊」があり、全国から試験合格祈願の参拝者が訪れています。

竜樹院大日如来石仏 Ryujuin-dainichi-nyorai-sekibutsu

元町竜樹院（りゅうじゅいん）に、辺りを圧するような雄大な大日如来石仏があります。材質は凝灰石で、総高5.4m、端正な顔だちの見事とした座像です。

旧二井宿街道に面した鞘堂（さやどう）には、古下駄・ぞうり・わらじがたくさん奉納され、特に4mあまりもある大わらじが目をひきます。

昔、旅の安全と、仏の慈悲を願い奉納されたものではないかと思われます。また、旧暦1月15日には、裸の若連が雪の中、大わらじを担ぎ町内をねり歩く、「大日如来わらじみこし祭」が行われます。夜には、「大さいと焼」が屋代川河畔に繰り広げられ五穀豊穣、家内安全を祈りながら燃え上がる炎は盛大で高畠の冬の風物詩となっています。

大日如来の大わらじ

犬の宮 Inu-no-miya

「チンは高安犬（こうやすいぬ）としての純血を保っていた最後の犬だった」の書き出しで始まる『高安犬物語』（動物作家：戸川幸夫氏）の直木賞受賞作の舞台になったところで、安産と無病息災の神としても知られ、犬をまつっている社（やしろ）としては全国でも珍しく、愛犬の健康と供養に訪れる人も多くいます。

⊙由来

和銅年間（708年〜714年）、都から役人が来て村人を集め「この里は昔から年貢も納めず田畑を作っていたが、今年から年貢のかわりに毎年、春と秋には子供を差し出すように」といい、村では大変困っていました。

犬の宮

ある年、文殊堂帰りの座頭※が道に迷い、一夜の宿を頼んだところが、今年の人年貢を差し出す家でした。

その夜、役人が現れ、ご馳走を食べながら「甲斐の国の三毛犬、四毛犬にこのことを知らせるな」と何回も念を押して帰るのを耳にした座頭は甲斐の国に使いをやり、三毛犬と四毛犬を借りてこさせ、いろいろ知恵を授け村を去りました。

村人は早速役人を酒席に招き、酔いが回ったところに、2匹の犬を放ったところ大乱闘になりました。あたりが静まり返った頃おそるおそる座敷を覗いてみると、血の海の中に子牛のような大狸が2匹と多数の荒狸が折り重なって死んでいた。そばには三毛犬、四毛犬も息絶え絶えに横たわっていました。村人は必死に手当てをしたが、とうとう犬は死んでしまいました。

この村を救った犬を村の鎮守とせよとのお告げによりまつったのが現在の犬の宮といわれています。

※座頭——盲目の僧侶。

猫の宮 Neko-no-miya

犬の宮に対座する猫の宮は昔、養蚕の神として信仰があつかった。

一方、猫などのペットの神としても知られ、ペットの健康祈願や供養に多くの人が訪れます。

猫の宮

亀岡文殊 Kameoka-monju

亀岡文殊は、丹後（京都）の切戸の文殊、大和（奈良）の安倍の文殊とともに、日本三文殊の一つとして有名です。

大同2年（807年）に、東北地方布教のため、当地を訪れた高僧が、中国の五台山に似た山容に心うたれ堂宇（どうう）を建立したのが文殊堂の始めといわれています。

昔から、『三人よれば文殊の知恵』といわれるように、学問の神様として知られて、入学、入社試験等の合格祈願に数多くの人が訪れます。

※堂宇——寺社の建物の総称。

亀岡文殊

文殊鐘楼堂

屋代郷義民高梨利右ェ門 Yashirokyo-gimin-Takanashi-Riemon

今も義民伝承として郷土に語り継がれている高梨利右ェ門は、米沢藩の重税と苛政（かせい）から農民を救った恩人として、後世に対する影響も大きく関係口碑も多くあります。

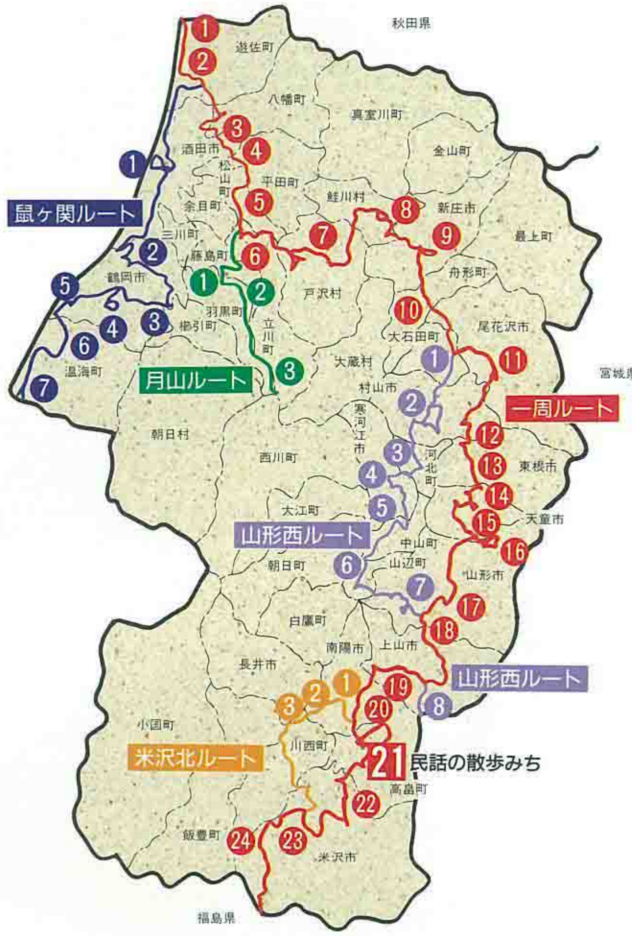
会津藩120万石の上杉氏が慶長6年(1601)米沢に移され、30万石に減封、更に寛文4年(1664)藩主綱勝は世継ぎがないまま急死、15万石となり、屋代郷3万石は皇室の領地となりました。しかし藩は幕府に願い屋代郷は上杉氏預領にもどりました。しかし米沢藩は120万石当時の家臣達を温存したため藩政は苦しく農民は重税に苦しみました。

新宿(二井宿)村の名主高梨利右ェ門は、農民の窮状を訴状(目安書)にしたため幕府に直訴、そのために利右ェ門は極刑に処されたと、以後「屋代郷義民高梨利右ェ門」として長く語り継がれるようになりました。

※苛政——規律がきびしい政治。

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



"新・奥の細道"とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。

"新・奥の細道"は正式には東北自然歩道といいます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この"新・奥の細道"は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ケ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469kmとなっています。

この"新・奥の細道"を楽しむために

1. コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
2. 歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
3. 天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。

この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発！

おねがい

・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
・案内板や休憩所はみんなのものです。大切にしましょう。
・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金還元融資を受けてつくられました。